令和４年度　学校評価報告書（目標設定）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①身につけさせたい学力を明確化し、「海老名高等学校スタンダード」を構築する。 ②生涯学び続ける力の育成を図るために「主体的・対話的で深い学び」の実現を柱に組織的な授業改善を行う。 ③総合的な探究（学習）の時間を構築し、探究力・創造力の育成を図る。	③探究力・創造力の育成を目指し、総合的な探究の時間の指導計画の改善を図る。	③各学年との連絡を密にし、生徒の学習状況を踏まえた指導計画を検討し、実践する。	③生徒の学習状況を踏まえた指導計画を作成し、教育活動を進めることができたか。
2	生徒指導 ・支援	①「文武両道」を柱に自主・自律」の精神を培い「規律ある学校生活」を送り、他者と協働し社会に貢献できる力を育成するために、特別活動の充実、部活動の活性化を図る。 ②生徒一人ひとりが充実した学校生活を送るために、組織的な教育相談体制を構築し実践する。	①「文武両道」を柱に自主・自律」の精神を培い「規律ある学校生活」を送り、他者と協働し社会に貢献できる力を育成するために、特別活動の充実、部活動の活性化を図る。 ②生徒一人ひとりが充実した学校生活を送るために、組織的な教育相談体制を構築し実践する。	①生徒が「規律ある学校生活」を送れるようにするための一環として、遅刻指導を実施する。１か月で３回以上遅刻した生徒は、翌月に学年で遅刻指導を行う。 ・昨年度までの経験から活動範囲を増やし、部活動加入率を上昇させ、学校行事等の実施規模を拡大する。 ②状況に応じスピーディにケース会議を開催し、生徒の情報把握と問題解決に努める。	①毎月取りこぼしなく遅刻指導を行うことができたか。 ・遅刻指導を受ける生徒が翌月遅刻をせず、月を追うごとに遅刻者数が減少したか。 ・部活動加入率が 85%以上になったか。 ・学校行事が昨年以上に実施できたか。 ②ケース会議を経て、生徒の抱える問題を解決することができたか。
3	進路指導 ・支援	①生徒一人ひとりの自己実現に向けて、３年間を見通したキャリア教育計画を構築し、支援体制の充実を図る。 ②生徒の第一志望を達成するために組織的に取り組み、より高い進路実現を図る。	①生徒一人ひとりの自己実現に向けて、３年間を見通したキャリア教育計画を構築し、支援体制の充実を図る。	①進路意識の向上のために、学年ごとに進路集会を定期的に開催する。 ・日々変化する進路情報を得るために、卒業生や大学関係者による講演会を実施する。	①１年間に、各学年で３回以上の進路学年集会を実施できたか。 ・卒業生や大学関係者による講演会を昨年度以上に開催できたか。
4	地域等との協働	①コミュニティ・スクールを円滑に推進する。学校運営協議会を柱とし地域連携を進め地域貢献を図り、「地域に信頼される学校づくり」に取り組む。 ②地域に根ざした環境教育を推進する。	①コミュニティ・スクールを円滑に推進する。学校運営協議会を柱とし地域連携を進め地域貢献を図り、「地域に信頼される学校づくり」に取り組む。	①感染症対策を講じながら、学校運営協議会を年３回程度開催する。 ・学校全体で地域貢献活動に積極的に参加する計画を立てる。	①学校運営協議会を年３回程度開催できたか。 ・年１回の清掃活動だけではなく、２つ以上の活動に貢献できたか。
5	学校管理 学校運営	①安全・安心な教育環境の実現を図る。 ②確かな防災教育の推進と防災意識の向上を図る。 ③教職員の働き方改革を推進し効率的で効果的に業務を遂行する。あわせて、教育者としての自覚をもち責任ある行動を行い、事故・不祥事防止に取り組む。	②新型コロナウイルス感染症に係る様々な課題解決や、避難訓練などの防災教育は、生徒主体や地域との協働の観点から推進していく。 ③教職員の多忙化の解消に向けて、業務の精選等を行う。 　学校業務を遂行するにあたり教育公務員としての責任を強く持ち、事故・不祥事防止に取り組む。	②新型コロナウイルス感染症予防や防災教育について、生徒の主体性を生かした内容や地域との協働が可能な内容を検討し実施する。 ③デジタル化や業務そのものの精選を進める。 　事故・不祥事ゼロを目標に、強く責任感を持ち適切に業務を進める。	②新型コロナウイルス感染症防予防や防災教育について、学校生活で生徒が主体性を生かした活動や、地域との協働で DIG などが実施されたか。 ③デジタル化を進め業務の精選ができたか。 　事故・不祥事ゼロが達成できたか。